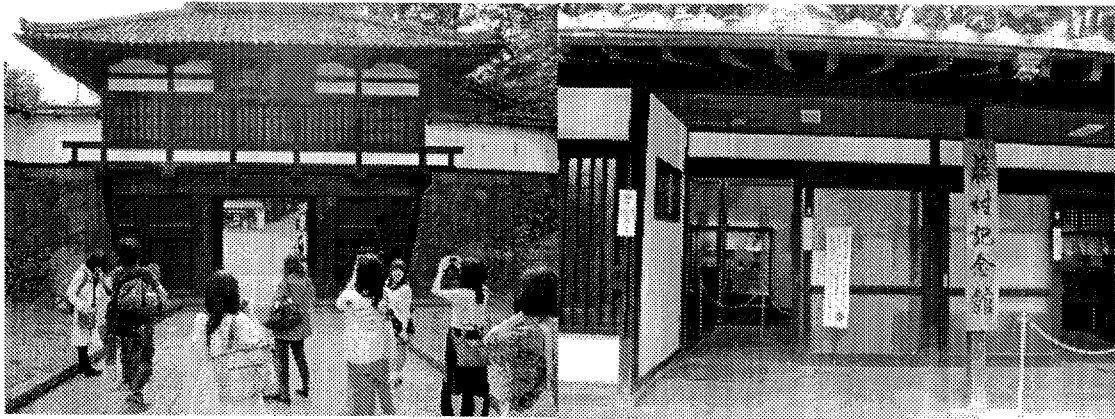


小諸市協働連携事業調査研究活動報告書

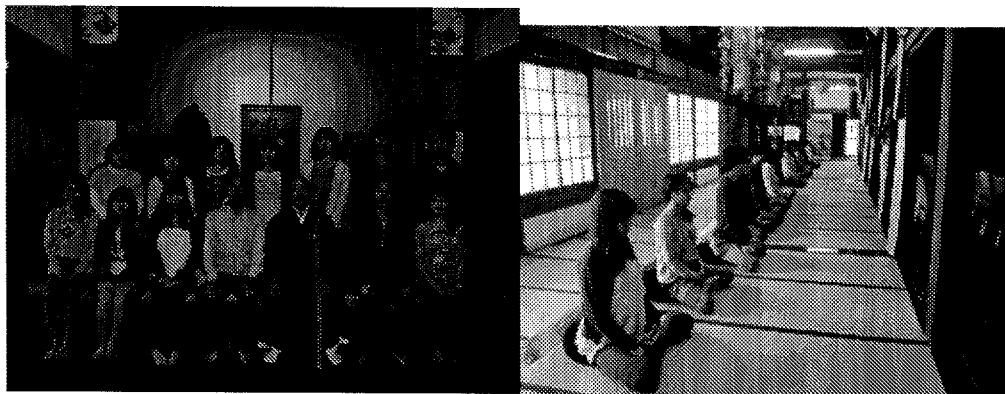
平成 26 年 9 月 19 日～21 日に行われた明治学院大学法学部高橋ゼミによる小諸市協働連携事業調査研究活動について、その活動が終了しましたのでここに報告いたします。

・ 2014 9/19 1 日目

13:00 小諸駅前に到着。懐古園見学を開始。ここでは主に展示物見学を通しての小諸市の歴史、島崎藤村の歩みを学ぶことを目的とした。

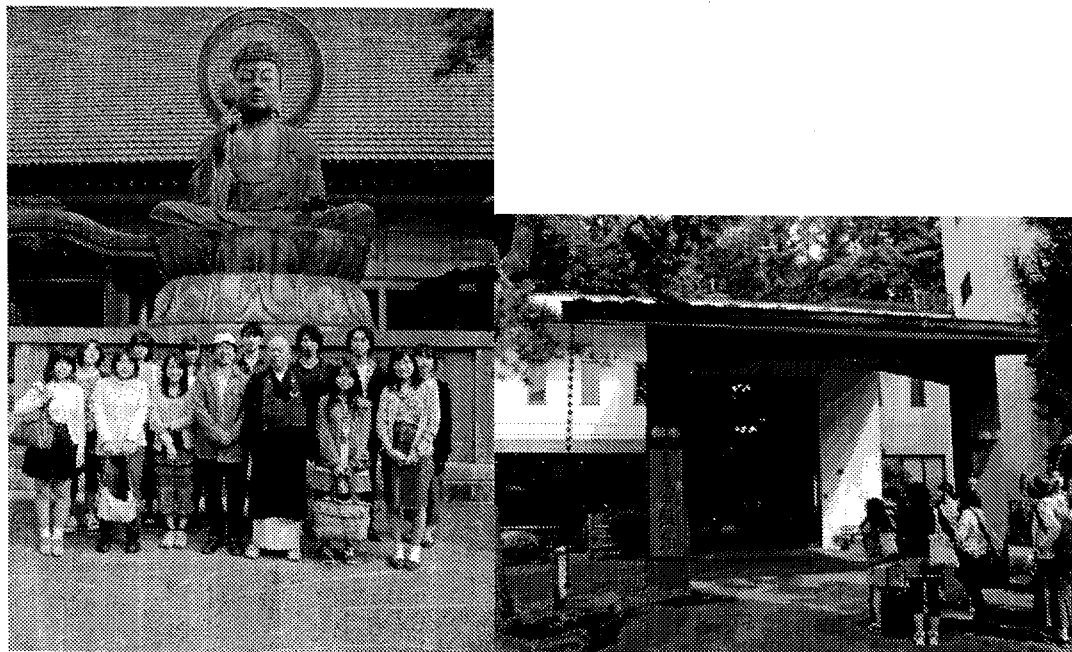


17:00 正眼院着。ここでは座禅、宿坊を通して伝統文化に触れ、精神的に成長することを目的とした。



・ 2014 9/20 2 日目

9:00 宿坊を終え、正眼院を出発。2日目の宿泊先である常磐館へと向かう。



13:00 昼食を取り、事務的な連絡事項確認の後ディベートを開始。4つのチームに分け、総当りで行った。議題は「少年法における死刑制度の是非について」「国内におけるカジノの是非について」「書籍の媒体は電子、紙どちらのほうが有用であるか」の3つを扱った。



ゼミ生全体を通して事前学習の知識が生き、議論は白熱した。

・2014 9/21 3日目

10:00 チェックアウトを終え、常磐館を出発。



・小諸市での合宿を振り返って

今回の経験を通して学んだことは多かった。

まず、この地域連携企画の発端である明治学院大学と島崎藤村の関係性について再確認するとともに、藤村の精神形成の一端を担った小諸市の空気を肌で感じることによって、勉学に対する意識を再確認した。1日目から2日目にかけて宿坊をした正眼院では、これまで書物や映像といったものでしか学んでこなかった仏教について実際の僧の方からお話を聞くことが出来た。そこで仏教的なものの見方や専門的知識について深く教えてもらい、今までのものとは違った方向からの刺激が得られたように思える。やはり聞きかじった事実と直接的な経験には雲泥の差があることを再確認した。2日目のディベートではその意識がゼミ生全体に広がっていたのがよくわかった。

これを踏まえ、高橋ゼミから小諸市に対する提言をまとめようと思う。今回の経験を通して感じた小諸市の魅力は島崎藤村を筆頭とする小諸義塾にあるのではと思う。木村熊二が創設し、キリスト教伝導も行っていた彼の教育精神をアピールしていくとともに、そういった精神を学び、取り入れることの出来る環境を作っていくのも有効的な手段なのではないかと考える。藤村らがリベラルな発想を教え広めた地で、現代の学生に限らず、多くの人間が自由な精神を得られる地であることをアピールポイントとして発信していくのだ。こういったリベラルな精神を学ぶことには、グローバル化が謳われる現代においても重要な意味を持つと私達は考える。そういったことを先人たちから学べる場はこれからの社会において学び舎になるとともに、互いの考えや思いを伝えることのできる憩いの場としても重宝していくのではないかと考える。